

授業科目名	批評論	担当教員 熊倉 敬聰			
必修の区分	選択				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	2年 第2クオーター				
講義内容	<p>芸術という営みは、作品の創造のみならず、それをいかに批評的に受容し、新たな知的・実践的文脈を作り出すか、すなわち「批評力」にもかかっている。本授業では、表現者のみならず、アートマネジャー、プロデューサーそしてもちろん批評家を志す者に必須なこの「批評力」を養い、向上させることを主眼とする。</p> <p>したがって、単に国内外の代表的な「批評家」のテキストを読解するだけでなく、実作品（ないしその映像）を見つつ、自らの批評力を高め、磨くライティング、ディスカッションも行う。</p> <p>なかんずく、アート業界においても「和」的心性を尊ぶあまり、えてして欧米的な「クリティック」が機能しにくいこの国において、真の「批評精神」とはいかなるものか、その精髓を探究する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「批評」を単に知的に理解するのではなく、実際に「作品」を眼の前にして、その鑑賞力の中に「批評力」を内蔵できるようにする。 ・各自の「批評力」を単なる「独断」にとどめないように、ダイアローグを通して各自の「批評力」を相互に批評しあい、切磋琢磨できるようにする。 ・実際に自分で批評文を書き、読み合うことにより、「批評」を書くことの難しさ、楽しさなどを体得できる。 				
授業計画	<p>”1. 批評とは?(1)：批評の特徴とは？</p> <p>2. 批評とは?(2)：「批評」の“いろは”を体験する一みんなで「ミシュラン」！</p> <p>3. 「芸術」批評に向けてのレッスン(1)</p> <p>4. 「芸術」批評に向けてのレッスン(2)</p> <p>5. 「芸術」批評に向けてのレッスン(3)—作品を「創作」してみる—</p> <p>6. 「芸術」批評に向けてのレッスン(4)—作品を「考察」し「評価」してみる—</p> <p>7. 「芸術」批評に向けてのレッスン(5)—「批評」文を書いてみる—</p> <p>8. 「Art」と「批評」の誕生：ヨーロッパにおける批評(1)</p> <p>9. 二つの「Art」、二つの「批評」：ヨーロッパにおける批評(2)</p> <p>10. Art2.0と批評2.0：ヨーロッパからアメリカへ</p> <p>11. 日本における「批評」(1)：小林秀雄を読む</p> <p>12. 日本における「批評」(2)：東浩紀を読む”</p>				

事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に読み、対話し、書く作業をするにあたって、事前に課題作品・テキストなどを見たり読んだりする場合がある。 授業中に課題が終わらない場合、事後にそれを完成させる必要がある。
テキスト	必要に応じて授業中に配布。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価 の 基 準	出席および授業内課題（50%）、最終レポート（50%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	特になし。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超える場合は抽選とする。